

記録

第二回東北保育連合大會

昨年五月、松島瑞巖寺において結成を見た東北地區保育連合會は、その後着實な發展を辿りつゝあるが、去六月二十七日二十八日の兩日左の如き要綱により第二回大會を弘前市元寺町、メソジスト教會において開催、多大の成果を收めた。

第一日(二十七日)午前八時より受付開始、九時三十分開會を宣し挨拶等型の如く、保育歌(花のおさなご)を齊唱して閉式、直ちに總會に入る。議長選出(齋藤久吉氏)庶務會計報告、協議——これを以て午前中の日程を了へて晝食、午後一時より三時までは講演會新幼兒教育のあり方 埼玉縣縣長キヌツクリヒ女史 愛泉寮長
例により女史の情熱溢るゝ名講演は満場を魅了し去り、多大の感銘を與ふ。三時より懇親會に入り、田頭晴彌(全保連組織部長)秋

田美子(同事業部長) 兩氏の語る全保連近況を皮切りに、つきせぬ話題に花は咲き、駘蕩とあたたかいものが、會する者の心から心に流れる。

第二日(二十八日)は、昨日につゞきキヌツクリヒ女史の講演(九・三〇——一・三〇)に、感銘を一しお新たに、午後は

幼兒教育のカリキュラム 秋田美子女史

の講演あり、些か亡羊の觀あるこの問題に明確な歸趨を指示されたのは洵に意義の深いことであつた。

かくて兩日にわたる意義ある會合を閉ぢ、第三日(二十九日)は有志による十和田湖周囲の清遊が催おされた。なほ來年度の開催縣は福島縣である。又東北保育連合會の會長は清野鶴氏、副會長は山口金藏氏である。

保母養成施設の現況

厚生省では過般來、保母養成施設の正確なる現況を調査中であつたが、この程五月一日現在の施設状況を左の通り發表した。

名	稱	所	在	地	生徒		職員數	所長名
					定員	現在員		
名古屋市立保育専門學園		名古屋	昭和區	白金町三ノ一	一〇〇	八九	二二	珠川善子
大阪府立保母學院		大阪市	東區	法田坂町一	六〇	四七	二四	宮本正雄
千葉縣立保母養成所		千葉縣	長生郡	茂原町茂原一、〇一六	六〇	五五	一七	大塚憲清
東京都立高等保母學院		東京都	墨田區	綠町四ノ一五	一〇〇	七三	二三	島岡靜二郎
神奈川縣立横濱保育専門學院		横濱區	南區	平樂町一三三	六〇	四五	二三	平野恒子

高知縣立保母養成所	高知市北門筋高知縣立女子大學校内	六〇	五二	一七	藤平
福岡保育専攻學校	福岡市馬飼町六の五〇一	六〇	二七	一九	福永
東京都社會事業協會附屬厚生保母學園	東京都目黒區自由丘ヶ丘三七	一〇〇	六三	一三	餘子
福島縣立高等保母學院	福島縣郡山市長者町五二	六〇	四四	一六	坪井
岡山縣立保母養成所	岡山市津島三軒家入口	六〇	五〇	七	太田
宮城縣立保母養成所	宮城縣仙臺市跡見町一の三	六〇	四〇	一八	山崎
北海道立保母養成所	北海道札幌市北十六條	四〇	三五	一八	稻垣

幼稚園小學校研究集會

千葉縣市川市眞間小學校で六月十二日から十七日まで關東プロックの研究集會が行なわれた。六月間の研究は豫定通り有意義に行なわれた。(日程等は本誌五月號「官廳公示連絡事項」参照)

次に幼稚園班のみの行動等について述べてみると、第二第三日目の午後の班別研究は研究主題六の「幼稚園と家庭との協力の方法」について研究し、第四日目は市川市菅野日出學園幼稚科を見學し、第五六日の午後は研究主題一の「幼稚園教育はなぜ必要であるか」について研究された。その他は小學校關係會員と同じ研究を行つた。

1 參加者
 指導者 文部省初等教育課 事務官 玉越三朗
 司會者 群馬縣桐生市役所 教育課長 木村 勇

司會補助	千葉大學附屬幼稚園	主事	宮内 孝
會員	東京都港區立西櫻幼稚園	教諭	山村きよ
"	" 千代田區立番町幼稚園	"	徳久 孝
"	" 港區立南山幼稚園	"	小山田幾子
"	" お茶の水大學附屬幼稚園	"	村田修子
"	" 學藝大學附屬幼稚園	"	船津丸秀子
"	神奈川縣立横濱幼稚園	"	神谷政子
"	横濱市立保土ヶ谷小學校	"	藤本せつ子
"	神奈川縣中郡秦野町立秦野幼稚園	"	守屋タキ
"	埼玉大學附屬幼稚園	"	友松秀子
"	埼玉縣浦和第一女子高校附屬幼稚園	"	星野智子
"	" 北埼玉郡加須町立加須幼稚園	"	齋藤光子
"	" 川越市立第二小學校	"	御菩薩木ノブ
"	" 浦和市麗和幼稚園	"	園長 中島 修
"	千葉縣市川市日出學園幼稚科	教諭	土屋マサ子